



トビダセ青春！ってなんですか？

広島工業大学高等学校
教諭 井上 薫 大森 玄一

学園総務部から本校の事務室に電話がかかったのは、確か3年前のことであったかと思う。当時、あまりにも気恥ずかしいそのネーミングにも、最近やっと慣れてはきたが、「何ですか？」と問われると、今までそのような学校行事はなかっただけに、答えに窮することもまた事実である。その取り組みは4年前にさかのぼる。

背景

平成4年の年度途中の9月から公立学校では土曜休業が導入されたが、感想を一言で言えば「本末転倒」であったと記憶している。当時日本はバブル経済の真っ只中であり、世界の主要国に比較して日本の勤労者労働時間の多さが指摘され、労働基準法が改正されるに伴って、公務員の労働時間の減少も図られた。学校6日制のままでは解決し得なかった労働時間の問題を、「ゆとり」と「生きる力」にすり替えたともいえる。その後完全5日制に移行するに伴い、本校においては出口校長(当時)の指導のもと「学校6日制・授業5日制」の方針を立ち上げることとなった。隔週土曜日は「学校行事の日」となったのである。



誕生

魅力ある学校づくりの一環として「土曜講座」を開講しよう。先生方の隠れた技能や才能を発揮してもらって、通常の授業やクラブ活動の範疇では味わえないものを、クラスも解体し保護者にも参加していただく「何か」をやらうじゃないか。だから、その「何か」は今までにないものであれば、何でもいいじゃないか。いかにも乱暴な発想のもと、これが「とびだせ青春！」の誕生となったのである。新しい行事を創設する際に一番大切なものは、緻密さよりもむしろエネルギーであるかもしれない。

先生方から寄せられた企画書は、実に60企画以上にも達し、その期待の大きさを感ぜられた。そして平成14年9月7日(土)の朝。先生も生徒も私服で登校し、なにやら不思議な雰囲気の中、SHRもチャイムもない実におだやかな不思議な一日が始まった。

今想えば、新しい学校のスタイルを自分自身で模索していたのかもしれない。



クラス企画へ

平成15年度から「とびだせ青春！」はクラス単位の企画へと変わっていった。クラス単位の企画にすることで、それまでの自主参加(参加率30%台)から全校生徒の参加となると共に、目的の中には担任の行事企画力の向上が含まれている。日頃の教室の中で机に着くだけではなかなか体験できない事柄にチャレンジすることで、有意義な一日を過ごすことを目的としている。

本校では年間行事の中で遠足が実施されていないこともあり、学校祭・体育祭・クラスマッチと共に「とびだせ青春！」がクラス作りにおいては大きな位置づけとなっている。実施時期を5月に設定しているのも、新しい学年となりクラス替えが行われることなどから、クラス全員で企画に関わることにより新しいクラスを作りあげていくことが目的の一つとなっている。

クラス単位の企画としたことにより、教職員は教室内とは違う生徒の姿を見ることが可能となり、新たな企画から生徒のクラスへの帰属意識もより強くなっているように感じられる。「とびだせ青春！」実施後の担任へのアンケートでも8割以上の担任がこの企画の現行内容での継続実施を希望している。

3年目ともなると“担任の企画力向上”という目的に沿った企画がクラスによっては立案されてきた。様々な体験から幅広い社会認識を形成していく中で、他者への理解を深めながら生徒の創造性を高めるもの、体験、見学などから新たな価値認識を高めていくものなど、教職員の前向きな取り組みにより年々企画内容もバラエティーに富んできている。

各企画内容に共通していることは、企画を通して教室内とは全く違う生き生きとした生徒たちの顔が見えるようになってきていることで、共に汗を流し、(八千代校舎道作り、極楽寺山登山など)共通の体験を行うことで、クラスを作るうえにおいてもこの企画がこれから先、益々重要になっていくと確信している。



平成14年度 企画一覧

- | | |
|--------------------|---------------------|
| 「森を知る」 | 「れっつ遊ば！英語」 |
| 「鈴が峰から工大高校を眺めてみよう」 | 「おもしろ数学パズル」 |
| 「アウトドアを楽しもう」 | 「数検道場」 |
| 「映像は文章を越えたのか？」 | 「護身術」 |
| 「混成球技大会」 | 「ハモってみよう」 |
| 「囲碁・将棋」 | 「ザ・美術館」 |
| 「Mr・KのBilliards講座」 | 「保健の実習」 |
| 「夢のある子どものおもちゃを作ろう」 | 「3Dグラフィクス」 |
| 「干潟」 | 「マイコンカーラリーに参加しよう」 |
| 「古寺探訪」 | 「工大カップ！フットサルトーナメント」 |
| 「トイレピッカピカ大作戦」 | 「食べて話して知る異文化」 |
| 「実験君」 | 「アビバ友の会」 |
| 「文芸、何でもやろう科」 | |